

Miraiの森

ミライノモリ

森村学園の「未来志向型教育」
グローバル人財の基盤をなす

ランゲージ・アーツ

「言語技術」



森村学園

中等部
高等部



森村学園同窓会ロゴ

森村学園の「未来志向型教育」 グローバル人財の基盤をなす

ランゲージ・アーツ

「言語技術」

森村学園の創立者：森村市左衛門は、100年以上前にその社会変化を見据え、建学の精神「独立自営」を掲げました。校訓「正直・親切・勤勉」は「人徳を備え、自らの人生を切り拓き、世界の力、社会の力となる人材の育成」の行動指針となっています。ここでは、「未来志向型教育」の根幹を支える森村学園の「言語技術(ランゲージ・アーツ)」について、詳しくご紹介いたします。



森村学園中等部・高等部
校長 江川 昭夫

「未来志向型教育」を支える「言語技術」

「言語技術」とは、母語による「読む」「書く」「聞く」「話す」の技能に加え、表現力などの「言語の運用力」を伸ばすもので、[図1]のようにあらゆる教育の基礎となる技術です。しかし、日本の国語教育においては「読む」力が重視される傾向にあり、物事を論理的に説明する力や、分析・解釈する力、表現力などは、学校教育の中で十分に取り上げられていないのが現状です。

森村学園が推進する「未来志向型教育」は、「外国語(英語)教育」「PBL(課題解決)型授業」「ICT環境」の3要素で成り立つ独自の教育システムです。これらすべてを実践的、具体的に機能させる役割を果たす学びが「言語技術(ランゲージ・アーツ)」です。予測不可能な未来社会をたくましく生き抜くために、教養ある自己表現を獲得し、自国社会はもとより国際社会に貢献する人財を育むこと。それが、森村学園が目指す「未来志向型教育」です。



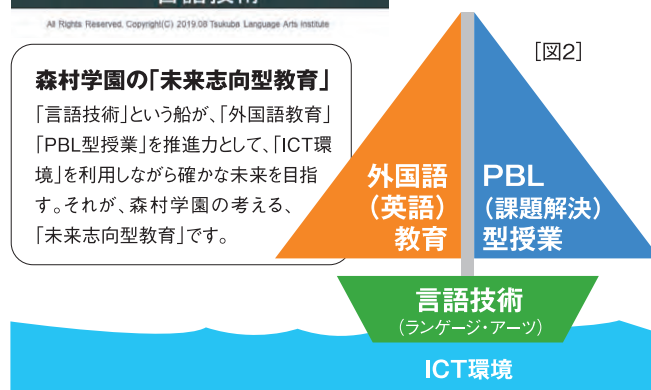
[図1]

出典：
つくば言語技術教育研究所

つくば言語技術教育研究所と提携し、所長の三森ゆりか先生にも、指導に関わって頂いています。

森村学園の「未来志向型教育」
「言語技術」という船が、「外国語教育」「PBL型授業」を推進力として、「ICT環境」を利用しながら確かな未来を目指す。それが、森村学園の考える、「未来志向型教育」です。

[図2]



一表現文化の大きな違い一

日本型

- ・「察し合い」が基調
- ・言葉は最小限に
- ・結論は後回し
- ・「論理」よりも「共感」

世界標準型

- ・結論を先に述べる
- ・必ず根拠を示す
- ・論理的

コミュニケーションにおける
共通基盤を確立することが必要です！

母語による論理的思考の確立

日本人は、諸外国の人々とのディスカッションが苦手だと指摘されることが多々あります。その原因は英語力不足ではなく、論理的思考や批判的思考が不足しているからです。そのため、日本人は日本語による論理的思考を身につけることが必要です。論理的思考の確立がなければ、たとえ英語が話せても、グローバルな場で実践的なコミュニケーションをとることが出来るとは限りません。しかし、世界標準の表現形式を学ぶことで英語が習得しやすくなるとともに、自分の意志を伝える力がつきます。



基礎学力を取り込み、 アウトプット力を高める。

学習のプロセスは、「知識」の集積、
「理解」「応用」を経て「論理的思考」
「批判的思考」「創造的思考」へと思考
レベルが向上します。これは、「タキ
ソノミー（教育目標の分類学）」とい
う、アメリカの教育学者ベンジャミン・
ブルームが提唱したものです。[図3]
森村学園では、基礎学力の習得とと
もに「言語技術」を学ぶことで、[図4]
のように「学びの好循環」を生み出し
ます。生徒は、「言語技術」を活用することにより、習得した基
礎学力（知識・理解力・応用力）を、より高度な思考レベルへ
と引き上げることができます。ひとたびその循環に入り込むこ
とができれば、学習の上昇スパイラルがトルネードのごとく基
礎学力を活性化させて発展していきます。

【教育目標分類】 [図3]



アメリカの教育学者
ベンジャミン・ブルーム提唱
「ブルームのタキソノミー」

[図4]



「言語技術」が身につく森村学園のカリキュラム

「言語技術」はアクティブ・ラーニングそのもので、学習内容は多岐にわたります。「問
答ゲーム」はその中核的な学びです。「あなたは○○が好きですか」という問いに対
し、「主題文＋展開文＋まとめ文」のパラグラフ構成で簡潔に話す・書くスキルを鍛え
ます。その上で「絵やテキスト」を使って主観に流されない客観分析の手法を学びま
す。また「物語」を素材に、聞き取った話を忠実に文章化する「再話」、物語の構造を
ふまえた「要約」や「創作」に取り組みます。さらに分析の手法を駆使して1冊の本を
多角的に読み取る「丸本」もあります。言語技術は、グローバル社会に求められる論
理的・批判的思考力と豊かな教養を育む学びと言えます。



花村友美子教諭による「言語技術」の授業

カリキュラム例

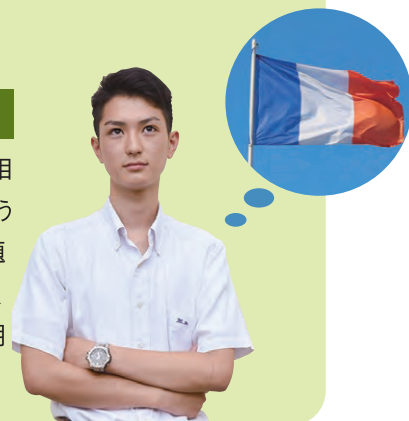
問答ゲーム

「あなたは花火を見ることが好き
ですか」という問いに、「主題文
＋展開文＋まとめ文」というパラ
グラフで答える。自分を客観視
し、明確な根拠をもとに意見を
組み立てる力を養います。



空間配列の説明

「フランス国旗を言葉だけで相
手が正確にイメージできるよう
に説明してください」という課題
に、伝えるべき項目を整理し、
説明順序を分析し、簡潔で明
快な説明文を組み立てます。



生徒も大人も実感！

「言語技術」の力

中部で3年間、「言語技術」授業を受けた後の生徒アンケート

中3終了時

パラグラフの構成に従って文章が書けるようになった…… **85%**

大→小の法則に従って描写・説明ができるようになった…… **89%**

テキスト内に根拠を求めて分析ができるようになった…… **81%**

高3卒業時

自分の意見をまとめる力がついた…………… **82%**

言語技術のスキルを高校の授業・大学受験でも使った… **84%**

大学や社会でも学んだスキルは使える…… **91%**

言語技術の指導に直接関わった者として、学びの成果を二つの観点からご紹介します。一つ目は、8年前の導入時から3年間、言語技術を学んだ生徒へのアンケート結果(一部)です。二つ目は、私が毎年オープンスクールで実施している「保護者体験講座」に参加された保護者の方々のお声です。

グローバル社会をたくましく生き抜く力を育む上で、言語技術は必須の学びだと思っています。



森村学園
中部・高等部
教頭 林 宏之

オープンスクールで「保護者対象 言語技術体験講座」を受講した保護者の方々のお声

自分が社会人になって苦労したところは、相手との会話力と文章力の低さでした。今回のランゲージ・アーツの授業を受けていたら、全く違う社会人生活になっただろうと思いました。

言語を構造で捉えて構築するトレーニングは素晴らしいと思いました！自分は英語でパラグラフの訓練を受けましたが、母語で行うことの意義はとても大きいです。これを受ける子供たちが増えると、日本にも希望が持てると思います。

世の中がグローバル化すればするほど、日本の文化や歴史を学び、理解した上でコミュニケーションすることが重要です。これからもわが子にはぜひ森村学園の「言語技術」を学ばせたいです。

メディアでも「言語技術」が注目されています！

● 朝日新聞 EduA
2019年 掲載予定

● 東洋経済 2018年5月12日号
「AI時代に勝つ子負ける子」

● プレジデントファミリー 2018夏号
「世界水準の言語能力を育てる」

● AERA 2017年6月5日号
「AI時代を生き抜く 中高一貫校 本誌が注目する30校」

入試関連イベントのご案内

● 第2回説明会 要予約

10/26(土)
14:30～16:30

中部1年生による
パネルディスカッションを行います。
9月1日(日)より
ホームページで予約を開始します。

● 第3回説明会 要予約

11/12(火)
10:30～12:30

10月1日(火)より
ホームページで予約を開始します。

● ミニ説明会 要予約

1/11(土)
10:30～12:00

12月1日(日)より
ホームページで予約を開始します。

入試問題解説会 要予約

12/7(土) 14:30～16:30

11月1日(金)よりホームページで予約を開始します。



森村学園 中部 高等部

〒226-0026 神奈川県横浜市緑区長津田町2695
TEL 045-984-2505 FAX 045-984-2565
<http://www.morimura.ac.jp>



森村学園の
ホームページ
はこちら

入試関連イベントの
ご予約はこちらから

